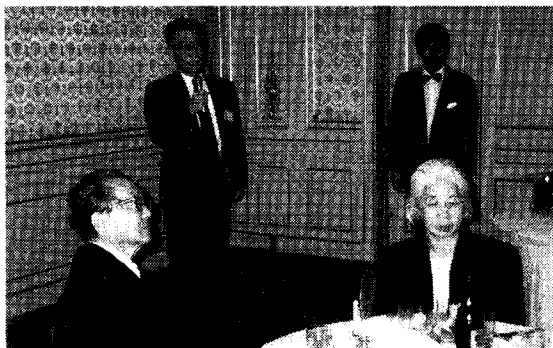


神戸博太郎先生の叙勲を祝う

1994年11月3日に神戸博太郎先生（1980年度本学会会長）が、勲三等旭日中綬章を受与されましたので、お祝い申し上げます。この度の叙勲は、レオロジーおよび耐熱性高分子の研究で多大な業績をあげられ、また、長年にわたり東京大学大学院生の教育に貢献したことによるものです。神戸先生は、初めコロイド化学やレオロジーの研究をされていましたが、1955年に熱分析の研究に着手し、熱分析法による高分子の耐熱性の研究に情熱を注ぎ込みました。その後、関集三先生をはじめとするカロリメトリーの研究グループと熱分析の研究グループを統括して1965年に熱測定研究会を結成し、1974年に日本熱測定学会を設立された功労者です。1981年3月に東京大学宇宙航空研究所を停年退官し、同年4月から1986年3月までの5年間群馬大学工学部に勤めました。その後はすべての学会活動から離れまして、富士山の見える南箱根ダイヤランドに居をかまえて、現在は雄子夫人と悠々自適の生活を楽しんでおられます。

神戸先生は、進取の気性に富み、常に新しい測定手段の開発と新しい解析法の確立をめざして頑張っており、学生および職員の指導をされておりました。例えば、DTAの試作と解析（小沢丈夫氏）、TGの試作と高分子の耐熱性の評価（五十嵐正一氏）、DSCを重合反応や熱分解反応に適用（堀江一之氏）、DMAによる耐熱性高分子の評価（横田力



1994年11月26日高輪プリンスホテルにて
神戸博太郎・雄子ご夫妻と小沢丈夫会長

男氏）が挙げられます。また、近ごろ装置メーカーが開発に力を入れているTGとGC/MSの組み合わせやTGとFT/IRの組み合わせを1959年の時点ですでに考えておられ、小生にガスクロマトグラフを使って高分子の熱分解を研究するようにお命じになりました。この件は、先生の意図から若干ずれて熱分解ガスクロマトグラフィーとして発展しました。三田達先生の協力のもとに高分子の熱分解の研究と数多くの耐熱性高分子の合成がなされました。この間に、多くの俊秀を育てて世に送り出しております。

さらに、神戸先生は国際的にも広く活躍され、現在のIC-TACの前身である国際熱分析連合（ICTA）の第5代会長も務められました。熱分析の発展と普及に尽力した功により1977年にはメトラ賞を受賞しました。会長の任期中に、すべての国際委員のお宅を訪問するという難事業をやり遂げました。このような徹底した実行力が趣味の世界でも発揮されており、ジグソーパズルに熱中するや、世界中で売り出されているほとんどすべての難しいジグソーパズルをやってしまいました。1994年11月26日に約40名の教え子達により叙勲祝賀会が催されましたが、そのお返しに先生のコペンハーゲンで撮影したスナップ写真を印刷したジグソーパズルでした。

神戸先生ご夫妻がいつまでもお元気で海外旅行を楽しまれることを祈念します。

（埼玉大学理学部 柴崎芳夫）



神戸博太郎先生の叙勲記念写真